



## 北海道斜里町におけるシラコバトの初観察記録

城石一徹<sup>1,\*</sup>・湯浅史美<sup>2</sup>

1. 日本野鳥の会オホーツク支部

2. 小清水町観光協会

### はじめに

シラコバト *Streptopelia decaocto* はハト目ハト科キジバト属に分類され、イギリス諸島およびスカンジナビア半島南部から東はバルカン半島と小アジアを越えてインドとスリランカまで、トルキスタンから河北省、朝鮮半島、日本までのユーラシア大陸、さらには北アフリカにも生息している。また、北アメリカと西インド諸島にも移入分布している（日本鳥学会 2024）。

日本鳥類目録改訂第 8 版によれば、本種は日本国内で主に関東北部で繁殖しているほか、福島、石川、東京、神奈川、新潟、大阪、岡山、島根、四国、九州、対馬、琉球諸島などで観察記録があるが、北海道における本種の記録は記載されていない（日本鳥学会 2024）。しかし、北海道においてはこれまで、2020 年 10 月 21 日から同年 11 月 9 日に礼文町船泊村において 1 羽が観察されている（鹿川 2021, 藤巻 2024）。著者は 2023 年 12 月から 2024 年 1 月までの期間に北海道斜里郡斜里町においてシラコバトと思われる鳥を観察したので、ここに報告する。

### 観察状況

#### 観察地および観察日時

観察地は、北海道斜里郡斜里町西町地区（43° 54.4′ N, 144° 38.4′ E）に位置する住宅地で、北は林帯幅 120 m 前後の国有海岸林、東は斜里川に

囲まれた農業地域だった。

著者のうち湯浅は、2023 年 12 月 25 日午後 2 時 19 分頃に、観察地の電線にとまるハト科鳥類 1 個体を発見した。その後、城石が 2023 年 12 月 29 日に、湯浅が 2024 年 1 月 29 日に、観察地周辺において同一と思われる個体を確認した。2024 年 1 月 30 日以降は本個体を確認することができなかった。観察時は、観察地に隣接する農地の一部に未収穫の大豆畑があり、少なくとも観察期間の 2023 年 12 月 25 日から 2024 年 1 月 29 日まで未収穫の状態が維持されていた。

観察には 15 倍の双眼鏡を用い、撮影には焦点距離 600 mm レンズを装着した一眼レフカメラを用いた。双眼鏡を用いて細部を確認したところ、当該個体は後述する形態的特徴を有していることが確認できた。

### 形態的特徴

今回観察されたシラコバトの写真を図 1 に示す。大きさはキジバトよりやや小さく、体に対して尾は長く見えた。嘴は灰黒色で、虹彩は暗赤色だった。頭部から腹部にかけては淡い灰褐色だった。肩羽と背から腰にかけては灰褐色を呈し、次列風切は黒褐色、初列風切は摩耗し、やや淡い黒褐色に見えた。尾羽は灰褐色で最外尾羽の外弁および尾羽下面の先端から半分程は白色に見えた。足は赤色だった。また発見時に

\*: tetsu\_tetsu\_ittetsu@yahoo.co.jp



図 1. 北海道斜里町で観察されたシラコバト  
(2024 年 1 月 29 日 湯浅史美撮影).

Fig. 1. A Eurasian collared dove observed in Shari Town, Hokkaido Prefecture. Photographed by Fumi Yuasa on 29 January 2024.

本個体の頸部後方の羽毛が部分的に脱落しているように見えたが、1 月 29 日に観察された同一と思われる個体では、頸部後方の羽毛が生え揃っているように見えた。頸部後方には黒い带状の羽毛が見られた。

#### 観察した行動

本個体について電線上にとまる姿を確認したほか、観察地北側の海岸林へ飛び去る行動を観察した。本個体は単独で行動していた。また観察時に本個体の採餌行動や鳴き声は確認できなかった。

#### 考察

体形の特徴から、本個体はハト科鳥類に属すると考えられた。ハト科鳥類のうち、東アジアから極東ロシアにかけての地域で記録があり、本個体の形態的特徴に類似する種は、シラコバト、ベニバト *S. tranquebarica* の雌が挙げられる (Del Hoyo *et al.* 1997)。これらのうち、ベニバトでは足の色が黒褐色または紫色味を帯びる黒色であり、虹彩は暗褐色であり (Del Hoyo *et al.* 1997, 真木ほか 2014)、本個体とは特徴

がことなる。ベニバトの雌ではシラコバトと比較すると、体全体の羽色の褐色味がやや強い。また尾羽が短く、寸詰まりの体形に見える。以上の特徴から本個体はベニバトではないと考えられ、シラコバトと同定した。

北海道におけるシラコバトの記録は前述した礼文町における観察記録のほか、2021 年 11 月 20 日から同年 11 月 30 日に同じく礼文町船舶村で 1 羽が確認された記録がある (鹿川 私信)。したがって、本観察記録は北海道におけるシラコバトの第 3 例目の記録であり、北海道本土における初記録である。

観察地には 500 羽を超えるシメ *Coccothraustes coccothraustes* の群れ、キジバト *S. orientalis* 1 羽などが大豆を採食していた (城石 未発表)。シラコバトの採食行動は確認できなかったが、同所に少なくとも 1 か月程度滞在していたことから、シメやキジバトと同様に農業残渣の食物資源に依存していた可能性が示唆された。

本種は、江戸時代に人為的に日本国内へ持ち込まれ、埼玉県東部地域を中心に定着したと考えられており、国内における希少性から

1956年に「越ヶ谷のシラコバト」として国の天然記念物に指定され（埼玉県オンライン<sup>\*1)</sup>、1965年には埼玉県の「県民の鳥」に指定されている（埼玉県2014）。日本鳥類目録改訂第8版では、関東北部の集団以外は自然分布とされているが、移入分布の可能性もあることが示唆されている（日本鳥学会2024）。しかし環境省レッドリストでは絶滅危惧ⅠB類に指定されている（環境省オンライン<sup>\*2)</sup>。小峯（2016）によれば、関東北部の個体群では農場等で家畜飼料に依存する傾向があることから、養鶏場の減少や、農場における防疫体制の強化によって、野生動物の畜舎への侵入が困難となったこと等の理由により個体数および分布が縮小していると推測されている。一方、ヨーロッパや北アメリカでは急速に繁殖分布が拡大してきたことが報告されている（Bagi *et al.* 2017）。このように、世界的にみると、本種は分布が縮小している地域と、拡大している地域があり、個体群が安定していると言い難い。今回観察された個体はどこから飛来したかについては不明確であるが、世界的に個体群が安定していない種について観察記録を蓄積していくことは、今後の本種における個体数動態や生息分布域の変化の理解に重要である。今後も北海道内において、本種が観察されるか注視していく必要がある。

#### 謝辞

本報告の執筆にあたり藤巻裕蔵氏、鹿川美咲氏からは北海道におけるシラコバトの記録に関する情報を提供いただいた。以上の各氏に厚く御礼申し上げる。

#### 引用文献

Bagi Z., Kraus H. R. & Kusza S. 2017. A review of the invasive Eurasian Collared Dove and possible research methods in the future. *Balkan Journal of Wildlife Research*. 4: 1-10. DOI: 10.15679/

bjwr.v4i2.53

Del Hoyo J., Elliot A. & Sargatal J. 1997. Handbook of the birds of the world. Sandgrouse to cuckoos, vol. 4. Lynx Edicions, Barcelona.

藤巻裕蔵. 2024. 北海道鳥類目録改訂5版. 極東鳥類研究会, 美唄.

鹿川美咲. 2021. 礼文島の小学校に北海道初確認のシラコバト 一緒に行動するベニバトも. 北海道野鳥だより 203: 7.

小峯昇. 2016. 生態図鑑 シラコバト. バードリサーチニュース2016年11月: 3.

真木広造・大西敏一・五百澤日丸. 2014. 日本の野鳥650. 平凡社, 東京

日本鳥学会. 2024. 日本鳥類目録 改訂第8版. 日本鳥学会, 東京.

#### オンラインドキュメント

\*1) 埼玉県. 2014. 埼玉県シラコバト保護計画. < <https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/4802/614427.pdf>>. 参照2026年1月21日.

\*2) 環境省. 2020. 環境省レッドリスト2020, <<https://www.env.go.jp/content/900515981.pdf>>. 参照2026年1月21日

## The first record of the Eurasian Collared Dove in Shari Town, Hokkaido, Japan

Ittetsu Shiroishi<sup>1,\*</sup> & Fumi Yuasa<sup>2</sup>

1. Wild Bird Society of Japan, Okhotsk

2. Koshimizu Tourism Association

A Eurasian Collared Dove *Streptopelia decaocto* was observed in Shari Town, north-eastern Hokkaido, Japan, from 25 December 2023 to 29 January 2024. This represents the first record of the species on the main island of Hokkaido and the third record for Hokkaido. The two previous records were from Rebun Island in northwestern Hokkaido.

*Keywords:* Eurasian Collared Dove, *Streptopelia decaocto*, Shari Town, Hokkaido Prefecture

\*: [tetsu\\_tetsu\\_ittetsu@yahoo.co.jp](mailto:tetsu_tetsu_ittetsu@yahoo.co.jp)